



特定非営利活動法人 地球デザインスクール
平成27年度

活動報告書

Anuai progress report



NPO 法人
地球デザインスクール

はじめに

地球デザインスクール発足のきっかけである「京都府立丹後海と星の見える丘公園」。27年度から新たな指定管理の契約期間に入り、平成31年度までの5年間の活動をスタートさせた。

事業計画では公園のランドデザインの検討をうたったが、策定計画よりむしろ足元の取り組みを積み上げる形で歩みを進めた1年になった。

公園や丹後地域を中心にして、人が学び、育つ活動を継続していくため、主に自主事業において自前で完結させないことや収益性を考えた企画を徐々に増やしていくことに努めた。



目次

公園運営

人の心とむ公園づくり	・・・・・・ 2P
グリーンツーリズム	・・・・・・ 3P
公園づくりから学ぶ環境学習	・・・・・・ 3P

環境学習 プログラム

公園を中心としたプログラム	・・・・・・ 4P
他団体との連携	・・・・・・ 5P

その他事業

宮津・竹の学校	・・・・・・ 6P
コネクト三 TAN	・・・・・・ 7P
アースデイ丹後 2015	・・・・・・ 7P

組織基盤強化 実績報告 人材育成

会員増の取り組み	・・・・・・ 8P
実績報告	・・・・・・ 8P
自然塾関連	・・・・・・ 9P
視察研修 整備班	・・・・・・ 9P
資格取得のフォロー	・・・・・・ 9P

人の心とむ 公園づくり

「森もいきいき、人もいきいき」をコンセプトに、安心して森に入り、心とむ空間をつくとともに、環境学習の拠点として、来園者が自然に親しみ、環境について考えるきっかけづくりを行った。また、整備に関しては一部をプログラムと連携しながら多くの方が参加する森づくりを行った。



■景観づくり・安全管理

- ・こどもの森周辺整備・・・鬱蒼としていた林内で除伐、下草刈等を行った。(10ha)
- ・海の回廊整備・・・こどもの森ゾーンの森林で海が一望できる散策道整備を行った。(500m)
- ・沿道整備・・・通常の沿道草刈に加え、沿道斜面の一部の除伐、下草刈りを行った。(2ha)
- ・植樹・・・宮津ふるさと森を育てる協議会と協働し、植樹を行った。また、挿木等も行い自生種の増加にも努めた。
- ・枯木処理・・・散策道周辺を中心に安全上問題のある枯木等の処理を重点的に行った。
- ・フィールドチェック・・・日々の点検に加え、月に1度の造形物点検を導入し、安全対策を強化した。



グリーン ツーリズム



園内で実施するプログラム以外にも、地域と協働でプログラムを展開した。

環境省が選定する重要里地里山 500 に選ばれた波見谷地区に位置する公園や良質な漁場である養老地区、合掌づくりなどの里山暮らしが色濃く残る上世屋地区などの周辺地域での活動も織り交ぜたグリーンツーリズムを展開した。

《実績》

- LOHAS コン・・・養老地域会議との共催。養老地域の自然を生かした婚活イベントを実施。
- うみ☆田んぼキッズ・・・波見地区の田んぼにおいて、田植え、稲刈り体験を実施。

公園づくりから 学ぶ環境学習

園内の森はかつて、里山として人々に利用されていた場所。「森もいきいき、人もいきいき」をテーマに、伐採や下草刈りなど季節に応じた管理作業を行うことで、いのちあふれるいきいきとした森を甦らせようと森づくりを行っている。単に作業として行うのではなく、森の役割、生物多様性や自然の循環を体験を通して伝えた。



森づくりプログラム

《実績》 全19回 参加者計：271名

春は集材。昨年に伐採した木にロープを括り付け、谷から引っ張り出した。長いものは運びやすいサイズに切り、搬出。親子行事では親子で一緒に汗を流し、チーム一体となって作業に励んだ。

夏は下草刈りの季節。園内に繁茂しているササの剪定を行った。1メートル以上伸びたササは子どもの背よりも高い。一本一本取り除き、ササの下に隠れている木の芽の生長を促した。

秋は伐採。チームで協力して立木を伐倒。園内は細い木が込み合っているため、数を減らして太く丈夫な木に仕立てている。活動を始めたことで、園内の森も明るく、心地の良い空間になってきた。今後も参加者の皆さまと一緒に森づくりを行っていききたい。



森もりキッズ

《実績》 全8回 参加者計：40名

小学3～6年生が毎月1回集まり、森づくりや自然探検などを行った。活動は自主性を大切にし、あまり活動内容を決めすぎず、子どもたちが興味を持ったことに寄り添いながら行った。



「火を使える人になろう!」と、マッチを使用した火つけ、火の維持を1年間練習。最初は苦戦するも、活動を終える頃にはどの木がよく燃え、どの葉っぱが燃えにくいのかなど、素材を選べるようになり、より少ない材料で火を起こせるようになった。各々が納得いくまで、できるようになるまでとことんやれる環境を提供し、生きるために必要な力が習得できた。

公園を中心 としたプログラム

宮津市教育委員会と連携し、宮津市の小学4年生に体験していただいております、その人数が半数を占めた。27年度は親子行事や家族での利用もあり、親子で自然や地球環境の事を学び、親世代は子どもにどんな地球を繋いでいくか考えるきっかけとなり、子どもたちはこれからの暮らしを考えるきっかけ作りとなった。

《実績》

■幼稚園1校：27名 ■小学校7校：210名
■中学校2校：98名 ■個人利用7組：83名
合計：418名



京都自然塾

近隣の小学校の利用が多くを占めており、5年生の宿泊体験や各学年の親子行事、遠足など様々な目的で公園を利用していただいた。保育所・幼稚園は、遠足利用が多く、園内散策や自然素材のクラフト作りが目立った。高校や大学は、園内整備と一体化して森での体験を行った。

学校利用全体で見ると、クラフトをはじめ、ピザ作りや郷土料理作りなど食のプログラムの利用も多くあった。食の体験では、ピザは京都府産の小麦を使用し、郷土料理においては、養老漁協で水揚げされた新鮮な魚を調理し、食の安全や大切さを考えるきっかけになった。

《実績》

■保育園・幼稚園10校：561名
■小学校23校：1243名 ■中学校2校：116名
■高校4校：183名 ■大学3校：68名



学校利用

実際に海で海藻やプランクトンを採集した。その場で実際に魚や貝に触れじっくり観察をし、漁港では漁具などの解説を行った。

採集した海藻やプランクトンは公園に持ち帰り、顕微鏡での観察やプランクトンを絵に描き発表をした。

地域のフィールドを生かし、海のための観察ではなく河口付近の汽水域との生き物の違いを見ることで、生物多様性や食物連鎖、森と海のつながりといった学びを深めた。生き物から海の多様性や森の大切さを学ぶとともに、園外に出てのプログラムのため、地域の方や漁師さんとの交流も魅力となった。

《実績》

■小学校2校：24名



海塾

ガイドウォーク



スタッフが自然の面白さや不思議を解説しながら散策した。何より季節を大切に、その時に見られる花や昆虫などの生き物を中心に解説。

小学校の団体利用時には、クイズを出したり、楽しく理解できるように工夫をした。また、実際に植物に触れたり、匂いを嗅いだりと五感を使うことを意識して案内することで、自然への興味や関心を深めることができた。生き物の話だけではなく、公園の造形物や森づくりについても説明することで公園づくりについても理解していただいた。

《実績》

■小学校8校：379名 ■中学校1校：6名
■個人利用：71名 合計：456名

環境学習プログラム

他団体・教育機関 との連携

団体連携

●ハローウッズ●



栃木県茂木町に位置する、ツインリンクもてぎ・ハローウッズと協働して「森人倶楽部」を実施し、参加者と共に、伐採作業と散策道（海の回廊）づくりを行った。

●自然塾ファミリー●

自然塾ファミリーとは、倉本聡氏監修の環境教育プログラム「富良野自然塾」を日本各地で展開している団体のつながりで、富良野、東京（昭和記念公園）、岡山（山田養蜂場）、今治（しまなみアースランド）、北九州（環境ミュージアム）、京都が現在のメンバー。

富良野自然塾を中心に、環境問題についての情報交換



を継続するなど、メンバー全体でのプログラムの資質向上につとめた。

←富良野自然塾
インストラクター小川氏
による「石の地球」

学校連携

●龍谷大学●

■国内体験学習プログラム

龍谷大学ボランティア・NPO活動センターが主催した3泊4日の国内体験学習プログラムを実施された。世屋エコツアーガイドの会や飯尾醸造、里波見カントリーフレンズなどの養老地域の方々などと協働してフィールドワークを行った。

学生による提案発表などを通して地域の現状、魅力と課題について学生たちが目を向けるきっかけとなった。



●その他の連携●

大学：■京都教育大学（プロジェクト 2041）■京都府立大学（インターン COC+）■京都大学
高校：■兵庫県立西宮今津高等学校 ■京都府立海洋高等学校

施設連携

●京都府立木津川運動公園 （城陽五里五里の丘）●

■実施日：平成28年2月11日

木津川運動公園を会場に大学生が主体となってステージ・クラフト・食・体験など運営を行った。他の施設に出向いてイベントを行うことで、他の施設の方やうみほし公園を知らない人など多くの方と触れ合うことができた。



●京都府立洛西浄化センター公園 （アクアパルコ洛西）●

■実施日：平成28年2月14日

京都の市街地にある府立公園にて、園内に460メートルのコースを作り、京都自然塾を実施。インストラクターの解説を聞きながら歩くことで地球の46億年の歴史が体感できるプログラムを行った。



宮津・竹の学校

■竹に関する調査・研究

京都大学柴田昌三研究室のメンバーを中心に、竹笹類の利用に関する以下の3つの調査・研究を行った。

1) 皆伐後の竹林の推移 2) ササの乾燥加工について 3) 宮津市の竹施策について

■竹のデザイン及び製品開発事業

過去2年間の流れを活かし、「手ぼうき」と「はしだて風鈴」を軸に事業を進めた。「手ぼうき」は、イベント等での体験ワークショップの他、大学の授業にも採用されるなどの進展があった。また、デザイナーによるプロトタイプデザインにも取り組んだ。

「はしだて風鈴」は、次年度以降に宮津の街中観光とタイアップしていく準備のために、金沢工業大学の土田研究室と宮津の観光セクターメンバーとの検討会を実施した。

■竹に関する教育普及事業

イタリアから7名のアーティストを招聘し、iBart2015を実施。丹後海と星の見える丘公園でのインスタレーション制作の他、京都大学博物館や大阪のイタリア文化会館との共催による講演会を開催した。他にも、子どもたちや家族を対象にしたキャンプの中で、竹関連プログラムを盛り込んだり、宮津市のイベント「和火」用の竹灯籠を作ったりするなど、竹に触れ、文化を感じるきっかけづくりを行った。

■情報発信・教材開発事業

ウェブサイト等での情報発信の他、今年度の事業成果を社会的に共有するために「宮津・竹の教科書2015」を制作した。教科書は今回の発行で3冊目となり、竹に関して知の体系づくりができた。



コネクト三TAN 地球育ミュージアム研究会 (通称：三TAN)

昨年度に引き続き、丹波・丹後・但馬の「三たん」エリアの自然環境系ミュージアムで連携を行った。

10月25日(日)開催の「アースガーデンみやづ2015」の中でトークセッションを行い、各施設が取り組みを紹介。今後どのような展開を図ろうとしているのか。環境学習、環境ツーリズム、地域環境保全などの観点から議論がされた。

《所属団体》(順不同)

- 兵庫丹波の森協会(丹波市・篠山市)
- 琴引浜鳴き砂文化館(京丹後市)
- 豊岡市立コウノトリ文化館・兵庫県立コウノトリの郷公園(豊岡市)
- 新温泉町山陰海岸ジオパーク館(新温泉町)
- 京都府立丹後海と星の見える丘公園(宮津市)



アースデイ丹後 2015

■アースデイ丹後とは

「アースデイ」は私たちの住む地球に感謝し、美しい地球を守り「地球のために行動する日」。世界各地で開催されている世界最大規模の環境市民イベント。

豊かな自然が残る京都北部・丹後。この丹後の自然で活動している人、自然を楽しんでいる人、自然を味わっている人が多くいるのに一堂に集まる機会がない。この自然と一緒に楽しめる人、分かち合える人をつなげていこう。そんな想いから、丹後海と星の見える丘公園をメイン会場にして、京都府北部初の「アースデイ丹後」を開催した。



■実行委員事務局

アースデイ丹後 2015 は、地元レストランのオーナーや地域おこし協力隊、環境 NPO 代表など様々な立場の人が集まり、実行委員会形式で活動した。地球デザインスクールはその事務局として、資料作成・広報活動・会場準備など実務的な部分を担った。

■地球デザインスクールの出店

理事によるワークショップブースやフードブース、自然体験の出店を行った。

○竹でわくわくアート（水野理事長）

材料に竹と笹の葉を使って、ドームを作成するワークショップを開催。参加者と一緒に竹を切り、組み立て、中には笹の葉のベッドを敷いた。完成すると笹のベッドの上に寝転び、笹の香りを楽しんだ。他にも、竹のベンチなどを参加者とともに作成した。



○宮津の竹で手ぼうきづくり（曾和理事）

宮津の放棄竹林から採取された竹の穂（竹穂）を乾燥し、公園サポーターの皆さんに素人でも作りやすかたに長さや量を整えていただいた。このワークショップを通して庭師の芸術とも言える掃除の技を継承し、同時に竹林再生・地域再生の動きにつなげることができた。当日は、子どもから年配の方まで幅広い世代の方が体験された。



○石窯パンづくり（嶋崎理事）

京都府産小麦粉をこねて生地を作り、石窯で焼くパン作りを実施。多くの参加者が手づくりのパン作りを楽しんだ。当日は、インターン生でパン作りを得意としている野崎さんも一緒に指導を行った。焼き上げたパンは、丹後産の野菜と炭火で焼いた鶏肉を挟んで「じぶんバーガー」としても販売し、大変好評であった。



○バンブータワー・バンブーホイッスルづくり（吉田理事）

一定の長さに切られた竹を積み上げていくバンブータワー。大人も子どもも高く積み上げることに夢中になって取り組んだ。くずれる際は竹の快音が会場に鳴り響き、その音を楽しむ来場者もいた。また、細い竹を用いてバンブーホイッスルづくりも実施。竹の奏でる音で会場が包まれた。



組織基盤強化

会員増の取り組み

■グリーンバー

- セミナー：2回開催「庭守からの伝言-巡る季節に宿る命」
「日本の竹・世界の竹のいまを話そう」
- kokoka オープンデー出店
- 早春の京都御苑バードウォーク

■グリーンバーレポート

○日本の竹・世界の竹のいまをはなそう

平成 27 年 12 月 19 日



京都大学大学院地球環境学堂柴田昌三教授を招き、世界竹会議2015、地球規模での竹の生態、環境保全と利用のことなどうかがった。竹の生態に関する基本的な話から、古来から続いていた竹と日本人の関係と、そこから生まれた様々な竹の利用法や知恵、それが失われつつある現代の問題などをわかりやすく解説していただいた。また、日本国内だけでなく海外での竹の利用法とその文化など、普段接することのできない情報もたくさん紹介していただいた。

○早春の京都御苑バードウォーク

平成 28 年 3 月 21 日



鳥類調査員である古園由香さんと大学院生で希少植物が専門の百生さんと一緒に春の京都御苑を歩いた。双眼鏡の選び方や使い方、鳥の声の聞き分け方などバードウォッチングの基礎的な話から、鳥の生態に関する専門的な話まで伺うことができた。御苑では、コゲラやメジロ、営巣するアオサギのカップルなど身近な鳥から、カワセミやアオバトなど珍しいものまで、23種の鳥達を観察することができた。

■広報誌 ひろば

2回発行



地 DS 会員の朝倉真一さんや板倉豊さんにお話をうかがった「会員だより」やグリーンバーや宮津・竹の学校事業の報告、うみほし公園で取り組んでいることを冬と春の2回発信した。

実績報告・前年度比

■宿泊	26 年度	27 年度
宿泊棟	1,874 人	2,273 人
多目的広場	258 人	383 人
合計	2,132 人	2,656 人

前年度比
宿泊合計 **1.2 倍** 増加

■プログラム	26 年度	27 年度
体験		
自主事業回数	125 回	159 回
参加者	2,501 人	4,916 人

前年度比
参加者数 約 **2 倍** 増加

自然塾関連

■理事研修

平成 27 年 6 月 15 日～17 日



水野理事長をはじめ、理事 7 名で富良野を訪問。富良野自然塾や林原氏の講演、倉本聡氏との談話などを行う。平成 23 年度からスタートしている京都自然塾の元になっている富良野自然塾の「環境教育プログラム」を感じた。

■自然塾研修 徳本

平成 27 年 9 月 23 日～10 月 5 日

京都自然塾インストラクターのスキルアップのため、長期研修を行った。研修期間中は、インストラクターの小川氏に指導していただき、技術向上に努めた。自然塾の指導以外にも、富良野自然塾で行っているゴルフ場を森に還すための種子集めやシニア研修のスタッフとしても参加させていただいた。京都自然塾のインストラクターとしてのスキルアップはもちろんのこと、環境問題や自然に対する根本の考え方なども学ぶことができた。



視察研修 整備班

平成 28 年 2 月 1 日 2 日

■モクモク手づくりファーム

■赤目の森

■滋賀県立近江富士花緑公園

平成 28 年 2 月 8 日

■府民の森ひよし

■日吉町森林組合



森づくりや林道整備、施設づくりの実践者の方とお話をする貴重な機会を得た。そのいづれもコンセプトや目指すものがしっかりと定められており、それに基づいた活動をされていることが各施設に共通していることであった。うみほし公園もコンセプトの見直しから行い、将来何年先、何十年先をイメージする必要があることを感じた。

資格取得のフォロー

■市瀬拓哉 造園施工管理技士 1 級 合格

■藤井美有希 造園施工管理技士 2 級 学科試験合格

